HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	CG/MSセミナー、分析機器ユーザーズミーティングに参加して
Author(s)	渡部, 賢二; 福士, 江里
Description	研修参加レポート
Citation	北海道大学大学院農学研究科技術部研究・技術報告, 9, 27-27
Issue Date	2002-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/35432
Type	departmental bulletin paper
File Information	9_p27.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

＜研修参加レポート＞

CG/MS セミナー、分析機器ユーザーズミーティングに参加して

ＧＣ－ＭＳ・ＮＭＲ測定室　　渡部　賢二、福士　江里

2001 年 10 月 2 日に行われた日本電子 GC/MS セミナー(札幌)に渡部が、11 月 21 日～22 日の分析機器ユーザーズミーティング(大阪、21 日が MS、22 日が NMR)に福士が参加した。分析機器を製造・販売するメーカーが定期的に開催するこのようなセミナーは多い。日本電子ユーザーズミーティングは東京、大阪など大都市で行われ、一種類の分析機器について一日をかけて測定上の Tips、新機種、新技術の紹介、関連技術の最近の動向、その分析を用いた研究についての特別講演や、実際に分析を担当している方々のユーザーズレポートなどの発表が行われる。札幌での GC/MS セミナーはそれをコンパクトにしたもので今年は半日の開催であった。

もっとも身近な演題はユーザーズレポートで、今回は新しく MS を担当することになった技官が苦労して測定していく様子が報告された。大学だけでなく企業でも分析担当者は一人で仕事をしているケースが多く、聴衆のほとんどが覚えのある事柄ばかりであったと思われる。発表された方はうまくいった測定もトラブルも克明に記録を残してありこのような発表が実現したもので、こういった記録は他の人に非常に役に立つ。「未来の自分は他人」という言葉どおり体で覚えたことでも忘れるときがくる、そのときのためにも記録は必要だと初心に帰った。

日本電子は製造販売だけではなく応用研究センターや受託分析をおこなう関連会社を持ち測定に関してもノウハウが蓄積されている。こういった測定上の Tips や新機種、新技術、関連技術の最近の動向などを手際よくまとめてわかりやすく紹介していただいた。内容だけではなく、効果的なスライドや時間配分などのプレゼンテーション技法についても大いに勉強になった。特別講演は大学の先生や企業の研究者から第一線の研究内容を聞くことができ、測定結果がどのような研究成果に結びつくかを知る貴重な機会である。研究と技術は併進し、技術の進歩が研究を推し進め、また研究上の要請が技術の進歩への原動力となるので、どちらについてもよく知っておく必要がある。

以上のような本プログラム以外の重要な要素として、通常は電話などでのお付き合いであるメーカーの方々と直接会えること、日本中にいる同業者の方々と知り合いになり話ができることがある。休憩時間には、発表内容をまとめたポスターや機器・消耗品の展示のある別室にお茶が用意されこのような情報交換が十分できるよう配慮されている。知識とともにヒューマンネットワークの輪を広げることのできるこのような機会は大変貴重である。